



【 父親に対する偏見と正しい役割 】

箇所: 箴言 13 章 1 節 / 暗唱聖句: マラキ書 4 章 6 節

説教者: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間の間も元気でしたか。もう蒸し暑い天気ですね。もう夏ばてしている方はいませんか。今年夏が享年よりもっと暑くなりそうですが、みなさんの心と体が守られますように主イエスキリストによってお祈り申し上げます。

今日は子供の日と等しく大切な時間である父の日感謝礼拝の時間です。この教会に素晴らしい父たちを送ってくださって、ともに信仰の生活をし、ともに奉仕するように導いてくださった神様に感謝します。特に父であるみなさん上に今日も主イエスキリストからの慰めと恵みの中で元気で日々日々守られますよう御名によって祝福します。

日本のある小さな田舎の農家であるお父さんと息子が住んでいました。彼らは年一度一年間耕した穀物や野菜などを荷車にのせて大きな都会の方に売るために出かけました。お父さんはすべての事にゆっくりと余裕を持ってやろうとする反面、息子は物事に気が短くて、なかなかじっくりと構えることができませんでした。

あるうらかな朝早く、そのお父さんと息子さんは黄牛を馬車(ばしゃ)をつなげて都会に向いました。

早速息子は黄牛にむちを振るいながら、急げ、急げ！と叫びます。それを見たお父さんは“そんなに急がないでね。そうすると黄牛が早く疲れてしまってもっと遅く到着してしまうから”とアドバイスしても、息子はむちを相変わらず振るい続けてました。ちょうどその時、伯父の家が見えます。お父さんは“せっかくもう伯父の家がすぐだからよ、ちよつとよって挨拶でもやっ行ってこう！”と、息子は“しかし、少しも早く行かないと良い値段で物全部を売れんから！”と反対します。お父さんは“何分遅れたとしてそんなに大変なことにならんからさ！ずっと合ってもないから寄れと！”お父さんも続けて言われたので、息子は仕方なく伯父さんの家に寄りました。そこで結局2時間を過ごしたら、息子は腹を立ちながら、ぶちぶちつぶやきながらまた出発しました。しばらく経ったら、次はお父さんは黄牛を追う順になりました。任せたくはなかった息子でしたが、都会まで長かったので、お父さんと約束した通りに交代してあげました。

さっそく目の前に道がふたつに分かれていました。ところが、お父さんは右側の道の方に黄牛を追います。

それにもどかしく感じた息子はまた怒りながら、“お父さん、左側の道が絶対早いで。なのに何で右の方に行くの”とゆったら、お父さんは“おれも、知ってるの。しかし、右側の道の風景が綺麗だから、せっかくだから見ながら行こう”息子はあきれていました。またしばらく行っている間、ある農夫さんがひいている荷車の車輪が畑に陥ているのを見て荷車からすぐ降りて手伝い始めました。息子はそんなお父さんの姿が気に入らなかったのです。

結局日が暮れて暗くなってしまったので、森の中でその日を過ごす事になり、翌日都会に着く事ができました。

しかし、どうしたのか。その都会に着いた途端、その親子は何にも言えませんでした。

なぜなら、その都会の町の真ん中に大きな爆弾が落ちたかのように町全体が廃墟と化して悲惨な町の状態でした。

その都会の名前が‘広島’でした。ちょうど昨日広島に原爆があったわけです。もし息子の話し通りに早く着いたならば、決して生き残ることができなかったはずでしょう。

その日以来息子は何もどうのこうの言わず、お父さんの話なら、何でも従うようになったようです。

愛する信仰の家族のみなさん！子供たちは大きくなればなるほどお父さんの話を聞こうとしない傾向があるでしょう。いつの間にか自分がお父さんよりよく知っていると、よくできると思いこんでいるからではないでしょうか。

お父さんのアドバイスはもう要らないと、もう古い話、つまらない話だろうと断定しているかも知れません。しかし、お父さんを尊敬し、尊重し、お父さんの話を聞き取り、従おうとすることが子供にとってはさらに守られ、祝福される賢いみちであることを覚えなければいけないと信じます。

それはただ先ほどのたとえの実話の話だけではなく、聖書では600回以上父という言葉が記されていますが、その中で続けて神様は強調しつつ教えて下さっている内容でもあります。箴言4章1節では[子どもらよ。父の訓戒に聞き従い、悟りを得るように心かけよ。]、6章20節「わが子よ。あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教えを捨てるな」とも書かれています。

マラキ書 4:6 の聖書には私たちにこう語っています。“彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ちほろぼさないためだ。”

神様の意図は父と子供の関係が一つになることです。エレミヤ書 29: 11 ではご自分の愛されている民たちへの思いを語られています。“わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。一主の御告げ—それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。”と言われました。神様の願われている父と子供の関係は平安と希望を与える関係です。

愛する信仰の家族のみなさん！すばらしい家庭、幸福な家庭は与えられるのではなく、作られていくものだという話があります。

これは家庭内での一人一人が家庭の幸福と祝福のためにともに努力すべきであることを強調する意味だと思えます。

しかし家族のなかでも家庭に一番、影響を与えたとしたら当然それは父だと言えるでしょう。母の愛もすばらしいですが、子供たちにとって父の愛は母の愛とはまた別だと思えます。

こんにち社会と家庭の根本的な問題の原因は何だと思えますか。私は正直に父の役割と機能を知らない父とその父を通して子

供の役割と機能を学ばされなかった子供たち! こういった悪循環によって数多くの事件や事故が起こされているのではないかとつくづくと思います。実際、父である自分自身すら自分の父から一度も抱かれたことがなかったため現在の自分の子供たちをも抱いたことがない父たちも多くあるし、そんな父を理解し切れなくてさまよっている子供たちがこの時代にどれだけ多いかわかりません。いきどおり、殴り、浮気、すべてを支配しようとする父のやり方で育てられてきている父たちが多いため、自分の子供たちにさえどうやって、どんな方法で自分の子供たちと関係を結ぶことができるかわからない父たち!

そしてそんな父たちによって、父に対する怒りと傷だけをおぼえ、遠ざけていく今日の子供たちが急増されているのが現実です。

いつかご紹介したことがありますが、数年間ニューヨークの刑事裁判所の判事をやっていたサムエールリポイツという人は青少年犯罪のための解決策についてこう語りました。“父を家庭のかしらの位置に取り戻さなければならぬ。” つづけて彼は数年間刑務者たちをカウンセリングした結果をこのようにまとめました。“私はこの数何年間、刑務者たちと接しながら自分の父親に対するにくしみがなかった子はだれ一人みたことがない。”と言いました。

そうです。子供の心と父の心が一つになるようにすることは何よりもこの時代に必要なことだと思います。父の心を子供に、そして子供の心を父に向けさせることこそ家庭を回復させる唯一の道だからです。

父が自分の位置と役割を正しく知り、父としての機能を発揮するときこそ子供たちも自分のもとの位置にもどれることができます。基準がゆらいでしまうと当然その後をついてきている子供たちもはずれてしまい、失われている道から戻れないからです。

<1. 父親に対する歪曲されている3つの偏見>

今日、男性たち、特に、お父さんたちはそうするために断ち切らなければならない偏見とか誤解(ごかい)があると思います。それが今日男性も含めて特に父親たちに変なプレッシャーが与えもつと肩を重くさせています。小さい時から知らないうちに男性たちであるならば、父親だったら、みんな身につけられたことでしたが、それに却(かえ)って苦しめさせて、真の男性、特に父の割り当てられた役を果たせないようにさせる原因ともなっていると思います。

みなさんはそれが何だと思えますか。

(1)男性(父親)はいつも強き者であるべきという偏見です。それが変なプレッシャーを父親たちに与えます。

子供の頃からいつも男性としての強さを見せつけることが男性の魅力であると教えられて来ました。このような考え方はいつの間にかに妻や子供たちにも見せなくてははいけなくなってしまいます。というわけで会社や仕事で受けられたストレスや怒りなどを間違ったやり方で出てしまい家族に暴力としてあらわしてしまうのです。結局かず多くの悲劇の事件が起こっている原因となっています。和睦な夫婦、家族関係を保つために家族が願っていることは力ではなく、柔(やわ)らかさである覚える必要があります。妻や子供たちは自分を理解し、つつんでくれる父親を望み、求めています。私たちはこの社会がかぶせた“強いなければいけない”というくりに今もしばりつけられて来たのならもう脱ぎ捨てましょう。御言葉は本当に強い人、力ある人は“柔和な者”だと教えてくださっていることを覚えていきましょう。

(2)二番目は、“父親(男性)は泣いてはいけない”ということです。男性は感情をあらわしてはいけないとか、いつも冷静でなければいけないとのこともひそかに学習されて来ました。私たちはなかなかように頑張る(しの)んで来ました。それでお父さんたちが感情をあらわしたりすると、弱そうに、恥ずかしく見えてしまうのではないのか気になります。そのため、他の人には自分の感情をあらわしても、特に妻や子供たちの前では現せない、あらわさなくたまっているお父さんたちです。

そのため、抑えられていた感情はお父さんたちに憂鬱(ゆううつ)になるようにさせたり、心の病気にかかってしまうお父さんたちが急増されています。

韓国の方はもっとご存知だと思いますが、韓国の方はもっとひどいです。韓国で男性たちは一生 3 度しか涙を見せてはいけないと言われて来ました。自分が生まれた時、国が滅びた時、親がなくなった時だけでなくべきだとよく言われています。もちろん今日はちゃんとそれを守っている人々はすくないと思いますが、それほど男性は自分の感情は押さえつけるのが まるで美德(びどく)見たいになっています。

しかし、神により造られた本当の男性なら涙も流し、自分の感情をあらわすのを恥ずかしいと思わない人です。お父さんたちのみなさんは今まで、自分の子供や家族の前で大変で、苦しくて、悲しくて泣いたことがありますか。それが子供や家族たちによくないと思われたでしょうか。決してそうではありません。聖書を見て下さい。聖書に出ている多くのお父さんたちは主の前でそして、家族と、自分の子供とともに泣いたり、共に喜びました。自分の子供のために心をたたき涙を流しながら祈りなさいとイエス様も言われたのではないのでしょうか。愛するみなさん! 子供たちは父親の涙を通して人間的なお父さんをもっと理解し、尊重し、愛することになるのではないかと思います。

(3)第三に、男性の世界は対面が命のように大切だということです。男性は体面文化だということなんです。もちろん、ほかの人に礼儀正しく対面をたもつのは大切だと思います。ある面では体面は男性にとってとても大切なことかもしれません。しかし、このような男性の体面文化はある面では二重的、つまり、偽善の姿もたらせる原因にもなります。体面文化は他人を意識する文化で、いつも自分の家族より他人を裂きに考える文化にもなります。

ある面では他人を裂きに配慮する面がかっこよく見えますが、問題はそのような親切さや配慮をいざ自分の妻や子供には施さないということです。

みなさんは奥さんや子供たちから時々“あなたはいつも他の人には優しく話しながら私にはぶっきら棒なの!” とよく言われてませんか。自分の家族はないがしろにしながら、他人にはよく配慮し、優しくする文化、それでいかに妻たちと子供たちは傷つけられていたのか分かりません。この世のすべての人々に優しいのはとても素晴らしいことです。しかし、一番そのよ

うに接されるべき自分の家族にもっと親切であることはもっとも素晴らしいことだと信じます。

申し上げた以外にも例え“お父さんは必ず成功しなければならない。お父さんはお金をたくさんもうけないと無能な父だ。”とか“お父さんは自分の過ちを認めてはいけない。そうすると父の権威がなくなるから”とか“父親はすべて自分が決めなければいけない。妻や子供たちの話に従うことは父親の男性らしさを放棄することなんだ。”とか、“男性は女性よりうえだ！”とか“愛の表現は女性たちがするもの”などこういうふうに変曲されたへんなプライド、体面がかえって夫婦や家族の幸せを妨げるカベとなり、今日の男性たち、お父さんたちを押し寄せられている大きなプレッシャーとなっているのではないのでしょうか。

もしもお父さんたちが間違った時にはすなおに家族に、神様にもその過ちを認める姿こそ本当の勇氣ある男性らしさ、権威ある父の姿ではないのでしょうか。お父さんの真の権威と力は完璧から来るのではなく、うらおもてのない正直さ、真実さから来る事を忘れないようにしましょう。

変なプライド、プレッシャーをもうすてて、助けが必要な時は大胆に“助けて、祈ってくれないか。”と言えるお父さん！最近心配していることは何ですか。家族に伝え共に祈れるようにさせて下さい。それが家族が心からねがっていることではないのでしょうか。

お父さんたち！最近家に変えてもあんまりにも家族から愛情を感じられてない方がいますか。

そうすると、まずお父さんが積極的に愛情の表現を言い表したり、見せたらどうでしょうか。

‘いや、妻や子供たちもやってくれないし、もしどうしても断られたら恥ずかしいじゃないでしょうか。’といえるお父さんたちもいらっしやると思いますが、逆に考えてみてください。それほどお父さんたちが以前から愛情をあらわさなかったことに家族はただなれてしまった結果を見ているわけではないのでしょうか。

このように男性であり、父親である私たちがすなおにならないように仮面(かめん)をかぶらせたり、押し寄せられているこういった変なプレッシャーをもう捨てたり、脱ぐようにしましょう。

<2. 父の4つの大切な機能 >

(1) 一つ目、父の大切な機能は結束することです。

父にとって一番大切なことは家族を一つにまとめる役割です。こんにち父たちの一番の問題といえば家族であれば自然に一つになることだと油断してしまい、家族たちに無関心になるということです。

アクトマイアーの話はとって衝撃です。“多くの父たちは家庭をかえりみようとし、家族に戻ろうとするが、それは立ち遅れで、家族はすでに父がいなくても生きていける方法を知っているのに父たちは気づかされるのである。”

アメリカのある家庭の相談研究所(そうだんけんきゅうじょ)のリサーチによると、父と子供との会話の時間は一日平均 37 秒、夫婦の間での会話は一週間に平均 24 分だそうです。この調査(ちょうさ)では、このような父によって家庭は破壊され、離婚率は急激(きゅうげき)に増加(ぞうか)し、特に子供たちに一番悪影響を与えているため青少年たちは家出(いいで)の衝動(しょうどう)を感じ、未婚(みこん)の母が増え、様々な青少年犯罪の深刻性が増しているということです。もちろんその責任が全部父にだけあるとは言えませんが、それほど父の影響力は大きいであることをよく表していると思います。

最近みなさんはどうやって家族を一つにしようとしていますか。不必要な社会生活の付き合いを減らして具体的に家族のための時間を計画し、家族と過ごす時間を作ってみることはいかがでしょうか。会話をたくさんすることも効果があるでしょう。子供たちと一緒に本屋さんに行くか、一緒に旅行をすることもいいと思います。

しかしなによりも家族に持続的(じぞくてき)に影響を与え、一つになっていくためにはこれだけでは不十分です。聖書では家族の結束(けっそく)のためにどう語っていますか。

旧約聖書を見ると、たびたびこのような表現がでてきます。

“**アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神**”つまり、父であったアブラハムが信じた神様がその子イサクの神様になったし、イサクの信じた神様がまたイサクの子ヤコブの神様となったということです。

つまり、聖書は私たちになによりも神様を信じる信仰によって家族が結束されていくことを願っているのです。

賢い父は子供たちや家族にお金や財産を遺産として譲り渡しません。むしろ物質というものは家族と子供たちを一つにされるよりかかえて争いを起こしやすいからです。ですから賢い父は子供たちに信仰を遺産として残します。このために父は霊的権威を持たなければなりません。なによりも信仰の影響を家族に与えなければなりません。神様をみあげ、神様を懇切に信じる信仰は家族内に苦しみと試練が来れば来るほど家族を強くさせます。信仰の力をいただいて家族全員があらゆる試練を克服するようにしましょう。今日父であるみなさんは家族を神様中心、信仰中心、教会中心の家庭として結束していますか。

(2) 二つ目、父にとって大切な機能は愛することです。

父たちのよきあやまちだといえば、子供の人格を愛し大切に思うよりか、父として自分が立てた規律や方針がさきになってしまうことです。アメリカ人など西洋の人々の家庭は愛を自然に表わす文化であると私たちは知っています。しかしアジアの文化圏の欠点でもありますが、父の体面を大切にすぎ、ひんぱんに家族に愛をあらわすと父としての権威がおちてしまって、軽率(けいそつ)に見られるのではないかとあってほとんど愛の表現はしません。今日父であるみなさんは妻や子供たちに愛の告白と表現をしてみてください。それについてとって違和感(いわかん)をおぼえるなら私たちはいままで父としての大切な機能、つまり家族を愛しているという表現が足りなかった事をあらわしてくれるサインであるとおぼえてください。

そして家族のみなさんも父がせっかく愛を表わしているのにそれに対して“きもーい”といいながらこぼんでしまうとはずかしかった

父は二度と愛の表現をしなくなることをおぼえむしろパパを励ましてあげてください。

そして子供たちへの体罰の時もまずこの質問を聞いてからたたいてください。

“私がおまえを本当に愛していることを知っているでしょう。”もし子供が知らないと答えるならたたかないでください。逆効果(ぎゃくこうか)がおきるかも知らないからです。みなさん! 家庭で母の愛と父の愛は明確に違います。

こんにちこの日本で欠けている愛といえばそれはなによりも父の愛だと信じます。

父の愛をあらわす最高の方法を神様の御名、イエスキリストの御名によって子供たち祝福することであることを旧約聖書ではひんぱんに記しています。(創世記 27:27,48:9,第二歴代誌 30:27,民数記 6:24-26)ですから子供たちに祝福の祈りをたっぷりしてあげてください。子供たちは父が自分たちを愛しているため自分を祝福してくれるのだと感じると一番の安定感をおぼえると思います。

(3) 三つ目は父の機能といえば導くことです。

父は普段子供との対話を通して子供たちを導かなければなりません。このために父は一貫性を必要としています。信仰の教養と訓戒を持って教えなければなりません。(エペソ 6:4, 箴言 15:5, 箴言 4:1-2,4, , 箴言 24:13、申命記 6:6-7)。

そしてすくなくとも子供たちに倫理(りんり)の模範になってあげなければなりません。いくら信仰があったと言っても普段、正直でないし、信仰に反する二重的な生活を送ると、子供たちは当然のように父の言っている信仰から遠ざかっていくかも知れません。ある家庭関連のリサーチチームで最近の青少年 100 人を対象に“父に似たいか”という質問をした結果、全体 33%だけが似たいと答え、37%は反対に絶対にそうしたくないと答え、ほか 30%はよくわからないと答えたそうです。似たいところとしては責任感、勤勉をえらび、反対に似たくない父の面は無関心、すぐ怒ること、子供たちとを不信することなどで答えたという統計(とうけい)があります。

“私がキリストに似ていくようにあなたがたは私にみならってください”と使徒パウロが語ったように我々父たちも子供たちに同じように言わなければなりません。“我が子供たちよ。私の信仰をみならいなさい!”と。

父であるみなさんは今日妻や子供たちにこのように言えますでしょうか。一度、妻や子供たちに正直に聞いてみてください。本当に自分の愛する子供たちは大きくなったらお父さんのようになりたいのか聞いてみてください。そうだと答えてもらえるならみなさんは父として家族をちゃんと導いている証拠になります。しかし誤解しないでください。完璧な父になりなさいという意味ではありません。すくなくとも家族たちに良い父として父を信頼し子供たちがついてきているのかです。その良い父への評価はやはり家族に聞くのが一番正しいですね。

(4) 父の機能は派遣することです。

どんなことですか。父は愛する子供たちをロボットのようにさせるのではなく、子供たちが自分の人生を自分で考え計画し、生きていけるようにたすけ信じてあげることです。子供たちを自分の所有物として扱わず、時がきたら彼らが自分の人生を生きるようにと派遣しなければなりません。父として何でも干渉(かんしょう)し、すべてを父が決めようとするより、ちいさい決定でも子供が自分でやってみるようにし、信じてみてください。そして子供たちが成長していくのに助言者(じょげんしゃ)としての役割に充実していけば、私たちの子供たちはいつの間にかに一人でも十分育てられていくと思います。

<3. 父の影響力はとつても大きいです。>

愛する聖徒のみなさん! 父の影響力はみさんの思う以上に大きいです。

申命記 5:9-10 をみると“あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎むものには、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。”と語られています。出エジプト 34: 7にも同じ内容の御言葉が記されています。

父の罪は一世代で終わりません。父の義も一世代で終わることはありません。悪いであれ、善であれ父の影響力は我々の子供たちに世々至るまで及ぼされる事を父たちは覚えなければなりません。

息子としてみなさんはみなさんの父とどんな関係になってきましたか。

みなさんの父がみなさんにまいた種によってみなさんはこんにちちとしてどんな実を結ばれていますか。

そしていま父であるみなさんはどんな種をみなさんの子供たちにまいていますか。

一度、真剣に神様と家族の前で自分自身をかえりみってみる父になりますようにお願いします。

父であるみなさん! 父に対する良い思いでもあると思いますが、だれでも父に対する傷はあると思います。父から受けた 傷はどうしても消すことはできないとしてもいま私たちが父として子供たちに与える事は十分選ぶことができます。いま父で ある私たちが御言葉と信仰によって自分の位置を守り、父としてのやるべきことを感謝をもって行いましょう。すると自分の世代に受けたいたみなどを我が子供たちは経験しなくても済むでしょう。

心理学者であるヘンリーピラー博士はこう語ります。

“今日、父たちに一番大切なのは父としての精神と自信をもう一度、取り戻す事である。”

このためにいまは男性たちこそ学ばされなければならないときだと思えます。私はすでに完璧な父ではなく、正しく生きる 父になるためにつねに工事中! という謙虚(けんきょ)な姿勢を神様の前で取りましょう。神様の御言葉を通して父である 私たちこそ自分自身と家族のためにもっと祈り、学んでいき、この時代に父として一番、格好よく用いられるクリスチャンプレイブチャーチのお父さんたちととなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!